

長崎通信

no.

80

●発行 長崎の証言の会 ●事務局 〒852 長崎市宝栄町18-4 ☎0958 (62) 8725

1986

1・1



(爆心地公園の「平和を祈る子の像」)
(被爆20周年に建立。撮影・黒崎晴生)

証言やまず
鎌田定夫

啄木の『悲しき頑具』をめぐると、こんな歌がある。

新しき明日の来るを信ずといふ
自分の言葉に
嘘はなけれど――

世におこなひがたき事のみ考へる
われの頭よ！
今年もしかるか。

何となく明日はよい事あるごとく
思ふ心を

長崎通信No.80内容

●85証言の会総会特集
2面 12・8不戦の集い
3面 広島・東京から
4・5面 証言運動方針
6・8面 会員通信
10面 証言の会座談会
10面 会計報告ほか

新しき明日の来るを信じつつ
いのちの証言
止むべからず。

叱りて眠る。

今年二月二十日は啄木が生まれて満百年になる。そこで啄木にならって一首、証言の仲間たちになさげたい。

核廃絶に向かって 今年こそ飛躍を！

新年おめでとうございます。

「私たちに被爆50周年はない」という必死の思いで反核を訴える老被爆者たちの声を、昨年は何度か耳にしました。

「その50周年まで、人類よ生きのびてほしい」という痛烈な希いがそこにはこめられています。

今年は「世界平和年」、核戦争阻止・核兵器廃絶に向かって、新たな飛躍をかちとりましょう。

新春早々、ジュネーブで国連NGO軍縮会議が開かれ、長崎からも渡辺千恵子さんが参加の予定です。

また、第3回国連軍縮特別総会開催も予想されています。

昨秋の総会で確認された諸課題達成のために努力しましょう。

(一) 核戦争阻止・核廃絶めざして非核都市宣言・非核政府の実現に全力をあげましょう。

(二) 政府の行為によって再び戦争を起させないよう、被爆者と戦災者・遺族への国家補償を！

(三) 若者と中年・老人の団結で草の根反核市民運動のトリデ、証言の会の拡大と新たな前進を！

一九八六年一月一日

長崎の証言の会運営委員会

会計報告

—1985年度総会承認—

(本報告は総会への報告の要約)

科 目	1985年度決算	備 考	1986年度予算	備 考
前年度繰越金	31,925		33,573	
会費・定期購読料	1,902,200	会費323名、 購読料182名	2,195,000	570名として
刊行物売上	1,878,986	証言、ながさきへの旅	2,100,000	
広告収入	221,000		35,000	
カンパ収入	254,040		30,000	
雑収入	12,541	預金利息、送料	2,000	
計	4,300,692円		4,981,573円	
「証言」印刷費	2,184,300	「証言」12号残、 13～15号、16号一部	2,400,000	16号残、 17～20号
その他の印刷費	330,200	「通信」その他	350,000	「通信」ほか
事務所維持費	172,940	家賃、光熱水費、 事務用品	217,000	
通信運搬費	670,159	通信、宅配、電話	650,000	
消耗備品費	5,500	資料、ガスコンロ	21,000	
人件費	619,500	事務局員、アルバイト	900,000	事務局員 編集助手
活動費	237,065	会議費、交通費、 渉外費、編集費等	370,000	
雑費	47,455	振替手数料ほか	50,000	
次年度繰越金	33,573		23,573	
計	4,300,622円	1984年11月～1985年10月	4,981,573円	1985年11月 ～1986年10月

■証言の会への寄金(敬称略)

―ありがとうございました。―

(富山) 石崎千鶴子・千四百円
(東京) 鈴木勝子・千円 谷川寿子・千円 おおえひで・五千円
(神奈川) 北村敏広・千円
(神戸) 石原佐記男・千円
(福岡) 伊藤晋・二千円 高比良治郎・二千円 (熊本) 砂田明・六千円 (宮崎) 夏田太・千円
(長崎) 山口美代子・千円 中村尚達・一万二千円 竹平宗平・千円 下平作江・二万円 中村豊・二千円 清水聡・千円 田川キサノ・二千円 正遠会・千円 合谷喜太郎・千円(計六万二千四百円)

■寄附図書(深謝)

『平和事典』広島平和文化センター
編(勁草書房)、『原爆投下へ道』荒井信一著(東京大学出版会)、『平和を創る』Y.M.C.A.国際平和研究所編(勁草書房)、『長崎詩集85』長崎詩集刊行委員会編、『子午線』27号(子午線社)、『ヒロシマ・ナガサキを考える』第16号(石川逸子)、『草土』14号(山田かん)、『軍縮問題資料』毎月各号(宇都宮軍縮研究室)、『語部』第9号(前川雅美)

■核実験抗議の坐りこみ

10月27日 フランス 二二三回
11月3日 フランス 二二四回
12月1日 フランス 二二五回
12月15日 英米合同 二二六回

■事務局日誌(10・12月)

10月30日 証言の会運営委員会。編集助手応募者説明会。

11月13日 証言の会運営委員会。

11月16日 市民平和講座「SDI」と日米軍事技術協力(常石敬二)

・長崎の証言の会85年度総会。

11月17日 母子像建立準備会。

12月7日 母子像建立準備会。

12月6日 「長崎平和の母子像」を建てる会(発足)(銀屋町教会)

12月8日 証言の会記録部・編集部会(パークサイドホテル)

・長崎不戦の集い(爆心地公園)

・証言の会懇談会(宝来軒)

12月13日・28日 母子像建立事務局会議(銀屋町教会)

1月1日 「長崎通信」80号発行。

■事務局異動のお知らせ

長年にわたって事務局員として活躍された岡村美智子さんが辞任され、内村まゆきさん(三児の母でピアノ教師、長崎市柳谷町)に当分は代行してもらいます。

岡村さんの助言をうけながら意欲的に仕事にあたっております。事務処理には毎日事務所に通いますが、留守番電話もありますので遠慮なく声をかけて下さい。

被爆四十周年目の長崎の証言の会に、ここから連帯のあいさつを送ります。

広島証言の会が生まれ、長崎の証言の会との共同刊行が始まってから、満四年を経過しました。広島もようやく幼年期を脱して、少年期に向かって前進し、長崎の証言の会に追いつこうと努めています。

さて、四年間を経過して、いま言えることは、長崎の証言の会と広島証言の会の共働、交互編集による『ヒロシマ・ナガサキの証言』刊行の活動は、長崎と広島と草の根市民の持続的、かつ密度の高い共同の事業として、成功裡に進展していると言えます。

長崎と広島との二つの証言の会がおたがいに刺激しあい、おたがいの戦争体験・原爆体験の思想化、反原爆運動の前進のために、がちちとスクラムを組んでいることは、日本の平和運動史に特筆すべき壮挙でもあります。

●長崎の証言の会 85年度総会へのメッセージ

広島より愛と連帯をこめて

広島証言の会

広島証言の会も発足当初かかえていた八十万円の赤字を克服し、編集部に新しいメンバーを加えつつ、次の飛躍に向けて着実に前進する決意でいます。

すでに来年一月刊行の『証言』第十七号の編集企画も進行中ですが、長崎からの積極的参加・支援をお願いいたします。

軍拡予算や靖国問題、国家秘密法など、戦争への歩みを阻止し、核廃絶と被爆者援護法実現のために、全国の会員、読者とともに、全力をあげてたたかいぬきましょう。

広島より、同志の愛と連帯をこめて。

一九八五年十一月十六日

広島証言の会事務局長

中村 義明

(広島市南区)



長崎の皆様の日頃の活動に敬意を表し、ごあいさつを申し上げます。

私にとって長崎は遠隔の地であり、また本日は東京で行われる「85米軍・自衛隊による軍被害問題を考える11・16のつどい」に参加しておりますので、文書にて失礼します。

「証言の会」会員に加えていただき「証言」誌にいくつもの文を書かせていただいたことは、私にはいづれも意義深く、勉強になりました。深く感謝しております。この地にも反核・平和を求める仲間がいることは、たいへん心強いことです。

「証言」誌16号、及び「通信」79号において、朝日新聞記者、中条

一雄氏の文章「原爆と差別」が、何人かの方から問題とされていきます。この間私は、中条氏の「連帯」「原爆もの」のお仕事のお手伝いをしていくということもあり、これらのご指摘に対する感想を別に書きました。お読みの方へご批判をたまわれば幸に存じます。ともかくご指摘のような感想を持つ読者があるという事は素直に受けとめたいと思います。中条氏にも「証言」「通信」を届けました。

総会の成功と、証言の会のさらなる発展を期待し、私も一反核ジャーナリストとして関わり続けることをお伝えして、ごあいさついたします。

(東京都練馬区)

みんなの募金で 市民平和研究所を！

片隅の1円玉、10円玉を
平和の使者に！



ヒロシマ・ナガサキ平和基金
ハートの募金運動

長崎推進委員会(代表 具島兼三郎)
〒852 長崎市宝来町18-4 ☎095826725
郵便振替(広島) 8 30777

あなたも平和基金へ
ヒロシマ・ナガサキを
世界に知らせるために
市民の国際交流と平和
活動を支援するために
不偏不党の立場で活用
し、市民による市民の
ための市民平和研究所
を一日も早くつくりま
しょう！

問い合わせは上記の
長崎推進委員会へどうぞ

一反核ジャーナリストとして私も

大内要三

12月9日 長崎新聞
太平洋戦44周年
不戦の誓い新たに
反核反戦・平和の集い

11月17日 長崎新聞
1千人会員めざす
長崎の証言の会が総会

11月18日 朝日新聞
手づくりの証言集発行へ
「長崎の証言の会」が総会

資金カンパにご協力を！

母親と娘たちも女性で、江頭が核廃絶と平和を願って、長崎に平和の母子像を建て、五千人で呼びかけを、12月8日発表しました。

被爆の丘に
平和の母子像
県内外へ賛
同者を募り、
一口千円(一
子とも百円)で
代表はいずれ
五百万円を集める。

〒850 長崎市古川町四
銀屋町教会会館
長崎平和の母子像を建てる会
(振替・長崎二・一〇五八)

反核証言運動一九八五年の総括

長崎の証言の会の85年度活動報告

長崎の証言の会運営委員会

一 85年度の主な活動経過

84年11月25日 84年度長崎の証言の会総会(被災協3階)
 12月8日 核廃絶人類不戦の集い。
 12月20日 『長崎通信』75号発行。
 85年1月6日 証言新年座談会。
 2月16・17日 広島証言の会と長崎の証言の会合同会議。『証言』13号、『通信』76号発行。
 12月21日 原水禁世界大会長崎準備委員会発足、証言の会参加。
 12月21日 反核歌と文学の集い。
 3月16・24日 在韓被爆者医療調査団派遣(鎌田、下平、松尾)。
 3月31日 韓国被爆者調査報告会。
 長崎の証言の会運営委員会。
 4月2日 福田須磨子忌の集い。
 4月26日 日蘭不戦の集い。
 5月1日 『証言』14号、『長崎通信』77号発行。
 5月29日 証言の会運営委員会。
 6月2日 ヒロシマ・ナガサキの証言交流会(福岡市)。
 8月8・9日 原水禁世界大会。
 8月10日 核廃絶不戦の集い。
 ナガサキ国際フォーラム。
 8月20日 『証言』15号、『長崎通信』78号発行。

二 85年度証言運動の総括

原爆と敗戦から四十年目の夏、世界の目は広島・長崎に集まり、核戦争阻止・核兵器廃絶を求める内外世論も一定の高まりを見せた。しかし、行政改革や靖国問題、国家機密法案上提等の動きや、SDIをめぐる対立など、内外のきびしい状況の中で、日本の平和運動もさまざまな試練をせまられてきた。
 長崎の証言の会では、その中で『証言』誌刊行を軸に多彩な活動を展開し、それなりの成果を収めてきた。しかし、会員拡大その他前年度からの課題もかかえこんだままである。

(1) 『証言』『通信』の編集・刊行
 『証言』では、ヒロシマ・ナガサキの証言と語り、活動、修学旅行等の平和教育、被爆者の要求と援護法制定運動、被爆四十周年の意味などを中心特集し、全国の草根運動と海外の反核運動をつなぐ証言運動誌として、また、平和学習誌として、きわめて重要な役割を果たしてきた。
 『通信』はこれを補い、会員・読者の親睦・交流、会活動の発展をめざしてきたが、『証言』の場合同様、さらに親しみやすい、充実した誌面づくりが求められている。また、『証言』普及のための広報活動にも今後努力と工夫が必要であろう。

(2) 証言の会の草の根反核運動
 今年は恒例の平和行事に加えて、二月の反核文学と歌の集い、三月の在韓被爆者調査団派遣、六月のヒロシマ・ナガサキの証言交流会など、証言運動の枠を広げ、他の市民団体との新しい企画に取り組み、大きな成果をあげた。
 また、この四、五年長崎の証言の会の会員を中心に進められてきた多彩な市民運動が、それぞれ独自の発展経過をたどり、そのためにも会の中心メンバーの拡散と多忙をもたらししている。
 特に、長崎平和推進協の結成と新しい部会活動の始まり、核実験に抗議する市民の会結成や各種の市民平和講座の開催などは、共に歓迎すべき運動の発展ではあるが、長崎の反核市民運動全体の活性化、拡充のためには、さらにちみつな自己検討と協同が必要であろう。
 さし当って、非核自治体宣言運動や「ヒロシマ・ナガサキ平和基金」の推進などは、他の草の根の市民団体との共同の課題として残されている。

(3) 国際連帯活動の強化
 証言の会では海外在住の被爆者、平和運動者たちとの交流につとめ、市民レベルの国際フォーラム開催、誌面への通信・論文類の紹介などを行ってきた。被爆者の海外遊説活動とも連携しながら、刊行物その他による平和・反核運動の国際的ネットワークの強化が求められている。

(4) 若返りと活性化、拡大
 反核市民運動の枠組みの拡大、『証言』誌編集の高度化、一方における地域的、全国的な右傾化の動きの中で、長崎の証言の会は、組織の若返りと活性化、拡大のための模索を続けてきた。
 最近の編集部の若返り、活性化のための呼びかけに対する予想をこえる反応は、新しい前進のための条件と可能性も熟しつつあることを示している。

反核証言運動の新たな展開を

長崎の証言の会の86年度方針

長崎の証言の会総会

被爆四十周年目の秋から冬へかけて米ソ軍縮交渉が開始され、第三回国連軍縮特別総会を検討する国連総会も行われている。しかし、スターウォーズ構想(SDI)の登場など、今月の核状況はますます緊迫化し、日本国内でも、行革、靖国問題や軍事費突出、国家機密法案上提等、戦後の平和と民主主義を否定する重大な危機が進行している。

このような情勢の中で、長崎の証言の会は、核戦争阻止・核兵器廃絶・非核都市宣言などの平和運動、被爆者援護法制定運動、反核証言・平和教育・文化創造活動のいっそうの前進を目ざした全国的ネットワークの強化、運営委員会はじめ組織全体の若返りと活性化、拡大を急がねばならない。

(一) 活気ある草の根の会めざして

これまで証言の会の活動は運営委員会を中心に進められ、編集部・国際部・事務局の三部があったが、新たに学習部と記録部の二つを設け、一般会員・読者・会友からの積極的参加を求める。

(1) 学習部——平和問題の学習、語リ活動、合評会。
 (2) 記録部——戦争・原爆体験の記録、生活記録の作製、文集『長崎の証言』、『長崎通信』発行。
 (3) 国際部——海外交流、資料・通信の翻訳、国際会議。
 (4) 編集部——ヒロシマ・ナガサキの証言、その他の出版物の編集刊行。
 (5) 事務局——証言の会事務、渉外刊行物普及、経理担当。
 これらの五つの部会は、それぞれ独自に、また共同して活動するが、平和活動のみでなく、本当に人間らしく生きる喜びと力のわくような多面的なサークル活動を進めていきたい。

(二) 全国ネットワークの確立

証言の会は全国に会員・読者を持ち、また海外にも協力者があり、文字通り広島・長崎を起点とする草の根の証言運動体となっている。会では各地の会員に地方委員を

依頼し、全国的ネットワークの強化をめざしているが、さらに多くの会員が地方委員として活躍されるように訴えらるとともに、地方支部の確立をはかりたい。

(三) 会員拡大と編集・事務局強化

今年こそは一千人会員の実現をめざし、運営委員、地方委員、各部会メンバーの活動の強化をはかる。そのために新年度より常勤の事務局員をおき、庶務会計と編集実務を担当してもらい、さらに編集部、事務局に若手のボランティアの参加を得て、会活動の強化をはかりたい。

また、学習部、記録部、国際部を含めた会活動を発展させるための文集、通信の発行のために、印刷機ワープロ等を購入、活用する。

(四) 86年度の証言の会の事業
 ① 『証言』(第17・20号)刊行。
 ② 『長崎通信』(第80・84号)発行
 ③ 手づくり証言集の発行。
 ④ 「ながさきへの旅」改定版発行。
 ⑤ グラフ「ながさき」(和英両文)の編集刊行。
 ⑥ 『証言』『旅』等の図書普及。
 ⑦ 調査・研究活動、平和講座。
 ⑧ 原爆被爆死没者調査への協力。
 ⑨ 平和・反核運動、被爆者運動、平和文化活動への参加。
 ⑩ 他団体との共同事業の推進。

86年度長崎の証言の会役員

会長 秋月辰一郎
 副会長 内田 伯 鎌田定夫
 事務局長 広瀬方人
 同次長 今田斐男 山内隆司
 (運営委員……次号に掲載)
 総会では次の新人も推薦された。
 今田美香、岩田和郎、内田公義、酒井伸子、杉山リツ子、柴原寿恵、夫、竹平宗平、戸泉俊子、野中照次、深見留弓子ほか。

会員・読者通信

核の兵器への怒り

東京都 松尾 繁

にほんでは人の／いまわの際に
唇を ま水で濡らして／安らけ
る習いがある
水をくれ 水がのみたい
広島／長崎の／名もなき人び
との／幽鬼のように さまよう
声は
あれから四十年もたった／今も
聞えてくる。
それは／二度と核の冬を救すま
じ とも／聞えてくる
(一九八五・一二・一五)

この詩は「平和の詩」につぐ第
二冊目「名も無きひとびとの平和
の詩」(86年2月刊行予定)の序
章です。

私自身、被爆者ではありません
が、その辛さを何かと描くことも
心狭くなる憶です。しかしあえて
「反核兵器」のテーマにとり組ん
でみると、意外な分野にまで拡が
る面があることを知りました。「名
も無きひとびとの平和の詩」(詩
歌画集)はその一つの試みです。
刊行できましたらお送りします。
みなさまによりしく。(東京都中
野区)

困難な仕事だが頑張って

東京都 藤森 司郎

このたび「長崎の証言」のこと
を知り、あつかましくもお願いす
ることにしました。「長崎の証言」
年刊7・9・10について各三〇
〇円とありますが、それでよろし
いでしょうか。切手を同封します
ので送っていただき、証言を読ま
せていただきますと思います。困
難な事業でしょうが、頑張って下
さるよう皆様をお願いします。
(東京都小平市)

私も会員にぜひ

下関市 前田 晃

私は長崎原爆投下の日、大村の
海軍病院で衛生兵として原爆の患
者さんの看護にあたりました。

あれから四十年過ぎた現在、私
も会社を停年になり、現住所にて
生活していますが、以前より長崎
の地を訪れ、原爆の跡を自分の目
で見たく、十月二十三日より二泊
三日で参りました。
原爆投下の中心地の碑や、資料
館、そして平和祈念像に参り、被
災者の霊にお祈りを捧げました。
今更のごとく原爆の恐ろしい威力
におどろきました。

また、今度の旅行中、朝日新聞
長崎版で貴会のことを知り、お便
りをさしあげる次第です。既発行
の季刊誌の残部はございませんで
しょうか。誌代は送金いたします。
編集者の問題等、いろいろ大変
でしょうが、ぜひご成功を心より
お祈りいたします。今後、何卒よ
ろしく会の中に加えて下さいませ
ようお願いします。(下関市)

「証言」誌を読みながら

大阪府 筒井 芽乃

「証言」をお送り下さいまして
ありがとうございます。証言の
中の記事は少しずつ読ませていた
だいております。知らなかつたこ
とではすみません、読みなが
ら考えさせられました。

また、高野栄次さんによる「娘
よ……」の書評は興味深く拝見
いたしました。とり上げて下さった
ことに感謝しております。

ひとりでも多くの方が口を開け
ることが必要だと思ひ、体験をま
とめてみたのですが、長崎にいら
つしやる方々にくらべて、私は知
らないことも多く、被爆時も安全
なところにいまして、原爆の
恐ろしさを十分に伝えることがで
きませんでした。そのことが心に
かかっています。しかし、私のこ

「ナガサキの日」と車椅子

東京都 吉田 昌代

「証言」16号本日受けとりまし
た。ありがとうございます。私
が代々木病院に入院中、八月六日
午前八時十五分に、病院内のマイ
クで「ヒロシマの原爆犠牲者に一
分間の黙禱を」と放送され、私の
「原爆悲歌」など反核の歌のテー
プを流して下さいました。

その後八月九日には何もなく、
私は一人で病床で観音経をあげ、
長崎の犠牲者の冥福を祈りました
が、どうしても不公平だという気
がしましたので、特別注文して車
椅子一台を購入し、「寄贈吉田昌
代、昭和六十年八月九日」と書い
て病院に寄贈しました。吉田利男
院長がわざわざお札に來られたの
で、私は長崎の日にも黙禱を、と
申しあげました。吉田院長は、「ま
ことに申しわけない。これからは
八月九日も、広島と同様に黙禱し
ます」と約束して下さいました。
私の身体はしばらくようすを見
て冠動脈三本とも手術しなければ
いけないかわかりません。今
の所、人に手助けしてもらって静
養し、二週間に一回通院していま

す。ナガサキの被爆者、犠牲者の
ため、車椅子はよいことをしたと
思っております。みなさまにもよ
ろしくお伝え下さい。(東京都豊
島区)

NACグループ誕生

宝塚市 北浦 葉子

ご心配をおかけしたネバー・ア
ゲイン・キャンペーン(NAC)も、
ようやく各応募者への結果通
知を送完了する運びとなりました。
このキャンペーンが大成功の
うちに一段落いたしましたのも皆
様の多大なるご協力の賜と心から
お礼申し上げます。選出された者
は活発な「被爆資料集め」を開始
し、選にもれた者も将来の行脚を
めざして勉強会を始めます。(「
グループNAC」が誕生いたしま
した!)今後とも皆様の暖かいご
支援を賜りますよう、心よりお
願い申し上げます。

(神戸の岸正蔵さんの紹介によ
り「長崎の証言」を十八冊お送り
下さいまして誠にありがとうございます
いたしました。私たちはこれを大いに
活用し、大切なメッセージを世界
に広めていきます。)

(宝塚市)

「証言」誌の貴重な仕事

佐世保市 杉本徳三郎

十月二十四日づけの「編集者募
る」記事拝見しました。現今、粗
製乱造されている俗悪雑誌の類と
は異なり、われわれが現在直面し
つつある切実な問題の生々しい訴
えの記録誌の発行を知りました。

今、われわれ人類に迫りつつあ
る逼迫せる情勢に油を注ぐような
科学なるものの暴走は地球壊滅を
もたらし、人類滅亡を招来せんと
しております。

かつて長崎、広島での生地獄沙
汰の悲痛きわまる体験からくる訴
え、われら同胞の叫びにも耳をか
さず各国は核実験を競ってくり返
している現状を知るに及び、ただ
啞然となるばかりです。

今日、アフリカ難民救済のため
の各国からの救援運動が盛んで、
日本でも種々の機関を通しての資
金・物資集め、宣伝等がニュース
になっていきます。しかし、一歩目
をひるがえして、長崎・広島之死
者の遺家族や、後遺症に苦悩の毎
日をすごしている市民に対するい
たわりや援助がどれほど行われて
いるかを考えると、このことこそ
最優先に取扱われるべきではない
かと思ひます。

ふるさと長崎でまた

長崎市 竹平 宗平

被爆者は老令と病弱でカツガツ
(次々に)消えてゆきますのに、
国家との因果関係は最も深い害な
のを軽視して、政治の光はわれわ

貴会の貴重なご企画に心から
敬意を捧げ、今後のご活躍に期待
いたします。申しおくれましたが、
私、停年退職後十三年になる年配
のものです。健在ながらこれとい
った仕事も持たず雑用の毎日です。
(佐世保市)

青い空を子どもへ

長崎市 杉山リツ子

四年前に仕事をやめて以来、家
庭に入り、家事に育児にと忙殺さ
れている毎日ですが、多少なりと
も社会面に対しても関心を持ち続
けたいと思っています。

私たち女性はこの地球上で人口
の約半数をしめるわけですし、多
くの女性が戦争等の争い事に対し
て関心を持ち、核や戦争に対して
女性が一丸となって反対をすれば
この地球上の国々から核や戦争を
追放することが可能なのではない

れの頭上にいつ射すのやら未知数
の状態、犠牲者は大死に終るの
ではないかと残念でなりません。
唯一の望みは、原爆の惨禍を原
点とし、核兵器の廃絶を力説する
世界平和の運動が曙光を見るきざ
しが見えてきたことは大きな成果
です。関係者のためまい努力の
かいがあったと感謝しています。
長年東友会ががんばってきまし
たが、このたび懐しい長崎にもど
ってまた老骨に鞭うちたいと思っ
ています。
(長崎市)

か、などと考えたりしています。
子供たちのためにも今の平和な
時代がいつまでも続き、空がいつ
までも青く澄み渡り、水が澄み、
山々の木々が緑であることを望む
時、核や戦争、環境問題に対しても
無関心ではいられないことを痛感
します。

長崎医学会に勤めていた頃、医
学会雑誌特集号の原爆後障害に関
する記事や資料を編集していた、
被爆者の人たちの精神的、肉体的
な苦しみを少しでも知ることがで
きました。朝日新聞紙上の記事の
中にも、編集者は仕事の合間に、

